

サンフランシスコは「住んでいる住民の左右の足の長さが違う」と冗談に言われるほど急な坂道の多い街である。車を運転して急坂を上り切ると前方が全く見えない状況に、スティーブ・マックィーンが主演してサンフランシスコ市内の急坂をフォード・ムスタングでぶっ飛ばした映画“ブリット”的主人公になったような気がした。

サンフランシスコ湾の対岸の街、オークランドのサーモキング冷凍機の販売店まで中国で発生した冷凍車のクレーム対応に必要な取り付けボルトをレンタカーで取りに行った。赤く塗られた大きなゴルデンゲートブリッジ(金門橋)を車で運転して渡るとアメリカ人になったような気がした。



感動した金門橋ドライブ

フランス出張時はパリのシャルル・ドゴール空港でレンタカーを借りる。初めてフランスで借用したレンタカーはフランス製のシトロエンだった。レンタカーの運転席に座りワイパーのスイッチを操作すると予想と違う部品が動き、フランス的な思考法が理解できなかった。シトロエンの運転操作に慣れるまで時間を要したので、次回からはドイツ車のワーゲンを予約時に注文するようにした。

成田空港での国際線の離陸が6時間程も遅れ、午後9時を過ぎにパリ空港に到着した時があった。空港近くの予約したエヤポートホテルに向かうが道順が判らず、外は冷たい雨が降る中、2時間以上も走ってようやく深夜になってホテルに辿り着くという苦い経験もあった。

英国ではロンドンでイタリア製のフィアットを

レンタカーで借りてイングランド北西部をドライブした。可愛らしい古い家屋が建つコッツウォールズや緑豊かな湖水地方、シェークスピアの生家があるストラットフォード・アポン・エイボンへのドライブで、英國が平野の多い緑豊かな国であることを肌で知った。



フィアットで訪れたコッツウォールズ(英国)

初めて運転したイタリア車フィアットは車のサイズも排気量も小さいが、運転し易く、軽快な走りが気にいった。英国人の運転マナーは良く、国内と同様に右ハンドルでの運転なので気も遣わずに快適なドライブを楽しむことができた。

海外でレンタカーを運転して外国人の運転マナーの良いことや、街路構造が運転し易くできていることを知った。車の少ない高速道路でも速度標識も見かけるとスピードを下げ、指示速度に従って正しく走行する。

道路の合流箇所では左右の車が一台ずつ互に譲り合ってスムーズに合流していく。国内で見かける前車に連なっての合流や、他車を割り込ませないような走り方を海外では見かけたことがない。

欧米では道路上で荷捌き駐車するトラックや指定駐車場所以外で路上駐車をする車両を見かけることは少ない。駐車する車両は歩道を挟んで設けられた駐車スペースや路上に敷かれた枠線内に正しく駐車している。駐車した車両が道路脇に引かれた白線を超えることがないので、走行車両はハンドルを切つて車線を変更する必要もなく、道路上を真っすぐに走ることができ、現地での運転に不慣れなレンタカーを借りた外国人ドライバーや高齢運転手でも安全に運転ができる道路・都市構造になっている。

国内の交差点には信号機がたくさん設置されている。車両は赤信号で停止する回数が多くなると燃費が悪くなるが、欧米では信号機のないラウンドアバウト交差点が多く設置されているので、走行車両は一旦停止することなく円滑に進路を変えている。

広島へ出張して駅前でレンタカーを借用して高速道路の中国自動車道を走行中、前方を走るダンプトラック車から小石が飛んで当たり、フロントガラスに小さな傷ができた。レンタカーの返却時、車に損傷がないか舐めるように点検した係員から、免責額として2万円の請求を受けた。「レンタカーは車両保険に加入しているので請求は可笑しい！」と主張したが聞き入れられなかった。

長い間、懇意にしている観光バス会社のオーナーは、走行中に大きなバスのフロントガラスにダンプ車から飛散した小石で傷がつき、高価なフロントガラスを何枚も交換したと悩みをこぼす。

欧米では土砂、飼料、木材チップなどのバルク荷物を輸送する上部を開放したオープントップ車には、積荷の飛散防止に走行中は上部を幌シートで覆うことが法律で義務付けられている。しかし国内のダンプ車は側面上部に短いコボレーンを取り付けただけで、上方部は開放した状態のままで走行している。

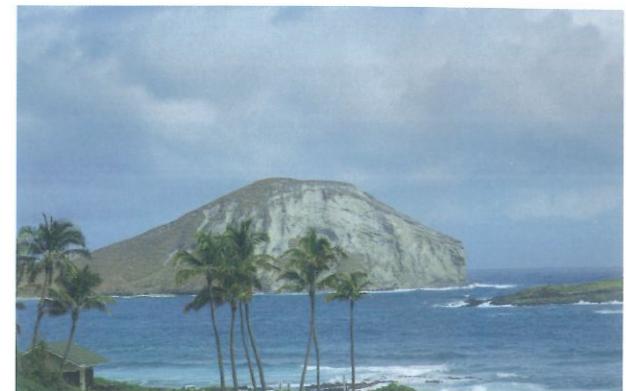
日頃、マイカー運転中にはダンプ車の後方を走ることを避けながら、国内車両の安全に関する規制や周辺装置が欧米に比べて遅れていることを情けなく思う。



欧米ではオープントップ車には積荷の飛散防止に幌の装着が法律で義務付けられている。国内でも運転手を重労働で危険な幌掛け作業から開放するクロマ口製自動開閉幌装置(伊)の取付が進んでいる

ハワイでもレンタカーを借りて爽快な空気を窓から吸いながらドライブした。椰子の木陰から太平洋に沈む真っ赤な夕陽の美しさが忘れられない。レンタカーを借りた時に「返却時間が遅くなる」と話すと、「駐車場に車を止めキーボックスに鍵を投げ入れる。それで返却は終了」と告げられる。

国内ではレンタカーの返却時、車両を係員が目を皿のように傷の有無を検査するが、海外ではそのような作業は体験したことがない。



爽やかな空気を吸って海岸線をドライブ(ハワイ)

広島での経験から「小石でフロントガラスに傷がついた」ときの対応を質問すると、欧米(米国、ロンドン、パリ)ではレンタカーはレンタル会社が車両保険に加入しているので「顧客への請求はない」との回答だった。国内でもレンタカーが普及したが、返却方法や補償制度などまだ海外に比べてレンタカー制度の後進性が目につく。(次号に続く)